

## 尾道市立向島中学校 第3学年 美術科学習指導案

### 題材名：身近な人を見つめて <彫刻>

日時・場所 平成26年10月15日（水） 第5校時 美術室  
学年・学級 3学年1組（39名）

## 題材について

### ○ 教材観

ギリシャ時代，作家は人体の美にあこがれ，ルネサンス期には芸術表現の基礎の習練を人体に位置づける方法が確立された。中学生が人物を表現する際は，人間に対する愛情をもって接することを大切にする。

学習内容については，学習指導要領の「〔第2学年及び第3学年〕2内容A表現(1)A対象を深く見つめ感じ取ったこと，考えたこと，夢，想像や感情なども心の世界などを基に，主題を生み出すこと。(3)A材料や用具の特性を生かし，自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること。」にあたる。

本題材は，一人の人間として作品を制作することで，表現したい人物を写実的かつ内面的にとらえ，人のやさしさやよさを見つめていくものである。

### ○ 生徒観

作品制作についての生徒の関心は高く，74%の生徒が「制作するのは好きだ。」と答えている。制作時でも静かに集中して活動できている。しかし，写実的に表現することについては苦手意識をもっている生徒が多く，うまく表現しなければならないという固定概念をもっている。粘土による表現は，小学校低学年時以来，あまり経験がない生徒が多い。

第1学年時から，制作した作品の鑑賞の場，作品に込めた思いや表現の工夫についての発表の場を設定してきた。回数を重ねる中で，生徒は少しずつ自分なりの工夫を，自分の思いや考えを造形的な要素を踏まえて表現できる生徒が増えてきつつある。

### ○ 指導観

表現したい人物をよく見つめさせ，単なる写実表現にとどまらず，その人物の人柄や性格を表現させるために，モデリング（付ける）やカービング（削る）が容易にでき，やり直しのしやすい粘土で表現させることにする。

しかし，生徒は粘土による表現には慣れていないため，段階ごとに示範を行い，表現方法を理解させながら表現させることにする。

## 題材の目標

- 参考作品の作者の思いや人間性にふれ，彫塑表現の面白さに関心を持ち人物を表現しようとする。
- 親しい人物をよく観察し，その人柄や性格をとらえて，粘土の特性や表現方法を生かしながら，塊の量やバランスを考えて表現する。
- 完成の喜びを味わい，自分の作品について語り，お互いの表現のよさを認め合う。

## 指導と評価の計画

### ○ 題材の評価規準

A 表現			B 鑑賞	
ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 美術への関心・意欲・態度	オ 鑑賞の能力
①彫塑表現のおもしろさに関心を持ち、人物を表現しようとしている。	①表現する人物の人柄や性格を感じ取りながらイメージを広げ、言葉にまとめたり、スケッチをしたりすることができる。	①粘土の特性を生かし、量感やバランスを考えながら表現できる。 ②表現する人物らしさが表れるように、表情を工夫したり、材料や表現方法の特性を生かしたり、強調したりして表現することができる。	①参考作品から作者の思いや人間性をとらえ、作品に関心を持ち、作者の内面を見つめようとしている。	①作家や生徒の作品を鑑賞して、作者の個性や心情、表現の多様性やその違いを感じ取ることができる。 ②生徒の作品のよさやおもしろさに気づき感想をもっている。

### ○ 指導計画（全 10 時間）

次	学習内容（時数）	評 価						評価方法
		表現			鑑賞		評価規準	
		関	発	創	関	鑑		
1次 (1)	1 参考作品を鑑賞し、作者の思いや感じ取り方を知り、作品のよさや面白さを感じ取る。  2 参考作品についての自分の見方や感じ方を交流する。 (1)				◎		オ①参考作品を鑑賞し、作者の思いや感じ取り方が大切であることを知り、表現の工夫、よさや面白さを感じ取っている。  エ①参考作品を鑑賞し、作者の生き方やその姿勢に関心をもっている。	ワークシート 行動観察 発言  発表・発言 行動観察
2次 (8)	1 指導者の作品を鑑賞し、彫塑表現の面白さに気付く。 2 インタビューを通して、表現する人物の人柄や性格を感じ取りながらイメージを広げ、言葉にまとめたり、スケッチをしたりする。 (2) 3 構想をもとに表現意図やねらいを生かせるように材料や用具を選んで計画的に制作する。 ・頭、首、肩の量のバランス ・鼻→目→口→耳→髪 ・細部、雰囲気 (6)	◎	◎	◎	◎		ア①彫塑表現の面白さに気づき、表現することに関心をもっている。 イ①表現する人物の人柄や性格を感じ取りながらイメージを広げ、言葉にまとめたり、スケッチをしたりすることができる。  ウ①粘土の特性を生かし、量感やバランスを考えながら表現できる。 ウ②表現する人物らしさが表れるように、表情を工夫したり、材料や表現方法の特性を生かしたり、強調したりして表現することができる。	ワークシート  ワークシート スケッチ  作品 行動観察 作品 行動観察
3次 (1)	1 生徒作品を鑑賞し、お互いの表現について造形的な観点をもとに交流し、作品のよさを認め合う。 本時 (1)		◎		◎		イ①自分の思いをどのように表現したかをまとめる。 オ②生徒作品の鑑賞を通して、作者の思いや表現の工夫を感じ取り認めることができる。	ワークシート  ワークシート 発表・発言

## 本時の学習

(1) 本時の目標

- 自分の作品について思いや表現の仕方を目的、造形要素、方法を明確にして発表し、お互いの表現のよさを認め合う。

(2) 準備物

指導者：鑑賞ワークシート、回転台、カメラ、TV

生徒：作品、筆記用具

(3) 学習の展開

学 習 活 動	◇指導の留意事項 ◆努力を要する状況と判断した生徒への指導の手立て	評 価 規 準 (評価方法)
1 あいさつ 2 本時のねらいを知り、自分のめあてを考える。 (4分)	◇立腰・黙想を徹底させる。 ◇本時のねらいを確認する。 ・自分の思いや表現の工夫を目的、造形要素、方法を明確にして発表する。 ・他の生徒作品のよさを感じ取り認め合う。	
	<ワークシート配布>	
3 発表の仕方を知る。 (3分)	◇発表の仕方を例示して理解させる。 「何のために(目的), 何を(造形要素), どのように(方法) 工夫した。」	
4 自分の作品への思いや工夫をまとめる。 (3分)	◇例示に合わせて自分の考えをまとめさせる。 ◆モデルのどのようなところを表現しようとしたのかを思い出させ、工夫したところを再確認させる。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">自己決定</div>	イ①自分の思いをどのように表現したかを目的、造形要素、方法を明確にしてまとめる。 (ワークシート)
5 自分の作品への思いや工夫を発表する。 (35分)	◇必要に応じて質問や感想を発表させる。 TVカメラを使用し、映像に映し出し鑑賞しやすくする。 ◆発表者の考えをよく聞き、作品のよさに注目させる。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">自己存在感</div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">共感的人間関係</div>	オ①生徒作品の鑑賞を通して、自分の考えを発表したり、作者の思いや表現の工夫を感じ取り認めたりすることができる。 (ワークシート) (発表・発言)
6 本時について振り返る。(5分)	◇目的、造形要素、方法を明確にしてまとめることができたかを評価させ、本時のまとめをする。	(ワークシート)

言語活動の充実